

会 議 録

会議の名称	令和 7 年度第 1 回飯塚市障がい者施策推進協議会
開催日時	令和 7 年 1 1 月 2 7 日 午後 3 時 0 0 分から午後 5 時 0 0 分まで
開催場所	飯塚市役所 本庁 5 階 研修室
出席委員	植木委員、金子委員、河邊委員、窪田委員、高橋委員、高原委員、豊永次郎委員、豊永恵委員、長谷川委員、藤井委員、湊上委員、渡邊委員、渡邊委員
欠席委員	元吉委員、尾田委員
事務局職員	福祉部長（東）、社会・障がい者福祉課長（森山）、同課長補佐（橋本）、同障がい者福祉係長（花村）、同・係員（村田、赤坂） 同障がい者自立支援係長（森）、同・係員（永田）
会議内容	<p>1. 移動等による後任委員紹介 植木委員（飯塚公共職業安定所）、河邊委員（飯塚市小中学校校長会） 任期：令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日</p> <p>2. 第 4 期飯塚市障がい者計画の令和 6 年度進捗状況について [事務局説明] 資料 1、資料 1-別添 1、事前質問の回答書に基づき説明する。</p> <p>[委員からの意見、質疑応答] ○資料番号 1、事業番号 13：意思疎通支援者派遣事業について （委員） 質問：手話通訳者のほうが委託から職員に戻ったということについて （事務局） 回答 ・「サン・アビリティーズいいづか」に手話通訳者がいるが、実際には 1 人で運営している状況で、令和 5 年度に 6 年度には対応困難になるとの相談を受けていた。 今後の手話通訳者の育成という課題もあり、市のほうで直営とし育成を兼ねて実施していかないと事業自体が安定しないと判断、令和 7 年 1 月より実施し、令和 7 年度については 2 名体制で対応し安定的な事業実施を見据えて直営に戻したという経緯です。 （委員） ・手話通訳者の大勢が高齢化で、知り合いの通訳者の方も厳しいと話されていた。</p>

要約筆記とかツールが増えてきて、通訳が必要なのか疑問に思っていたが、高齢の方や識字の方は手話が表現する言語として大事なものの、無理にならないよう進めていただきたい。

○事前質問 5、事業番号 1：障がい者週間を活用した啓発事業

事前質問 7、事業番号 5：みんなの健康・福祉のつどいについて

(委員)

質問：障がい者の理解を求める企画や当事者参加がもっとできるように

(事務局)

回答

・当事者の方が参加できるようイベントや会議等について、協力できるように心がけ実施していきたい。

○資料番号 1、事業番号 9：成年後見制度の利用促進について

(委員)

質問：高齢の人や障がいのある人に成年後見人制度のニーズが高まっているが、相談件数やその後の経緯とかがあれば、現場で周知したいので教えてほしい。

(事務局)

回答

・令和 6 年度実績 2 件、これは基本的に障がいのある方で、縁の無い方が対象になり市長申し立てとなる。

65 歳になると高齢者としてみるため、相談自体は両手で収まるくらいの件数で、それから市長申し立てに行くのが 2 件となる。

施設等を利用していけば施設完結しており、相談にまで進まず、市長申し立てまで必要ない、中核機関、成年後見支援センターがあるが、これから検討していく状況。

(委員)

質問：市民後見人の割合は少ない状況か、難しいのか

(事務局)

回答

・コロナ前には高齢部門で養成講座とか社会福祉協議会で開催していたが、養成講座自体が動いていないのが現状で、後見人には弁護士や司法書士がついて、市民後見人については以前に養成講座を受けられた方も実際には活動できていない状況。

○65 歳以上の障がい者サービスの利用について

(委員)

質問：今一番困っているのが、65 歳を超えた精神疾患の方が障がい者向けのグループホームで見たいが、その前に介護保険認定非該当に

ならなければ、障がいのほうで見られないという難しいことがあり、精神科のグループホームに入れなくなって病院を退院できない方が結構いる。

厚労省の方が福岡市に来た際、このことを質問すると、行政によって地域で解決しているところもあると返答を受けた。

介護保険認定非該当は絶対に通過しないといけないことになっているのですか。

(事務局)

回答

・65歳未満、精神疾患でグループホームを既に利用している場合はそのまま利用継続可能、65歳以上で新規に利用をする場合、介護保険優先となります、委員のお話のとおり検討の余地があると考えています。

(委員)

・高齢者施設から見ると精神疾患の人は見れないとか、透析されている方もいるので、さらに入所できないとなってくる。

精神科のグループホームに入れるという形であれば可能で、退院ができない方がおられるというのはちょっと。

国のほうでは極力外来、グループホームでということになっている。

(事務局)

・切実な問題であると認識しており、引き続き検討していきます。

○事前質問（質問番号9）障がい者の活動の場の提供について

(委員)

質問：プロポーザルで選定中とのことですが、サン・アビリティーズいづかの利用方法等については、変化があったり違いが出たりするのか。

(事務局)

回答

・今回の回答が契約関係の回答となっており、申し訳ありません。

引き続きサン・アビリティーズいづかの利用申請や使用方法、対象者については、これまで通りで変更はありません。

○スペシャルサポートガイドブックの件について

(委員)

質問：子ども用のガイドブックが欲しいと思っていた時に、自分も参加して2013年作成に参加し出来上がりました。

ヘルプマーク（カード）もそうですが、障がい者手帳を取りに来られた方々に周知してほしい、宮崎市になりますが、市役所のカウンターのマットの中に大きく周知されて、「必要な方は申し出てください」と、受け入れたくない方もあると思いますが、もう一歩踏み込んで周知をお願いしたい。

スペシャルサポートガイドブックですが、欲しい人はこども家庭課の方に行く、もっと横の繋がりをとっていただき、スムーズに下さいと言える連携をお願いします。

○事前質問（質問番号 10）障がい者団体の支援について
（委員）

質問：目的・金額・内容や現状について教えてください。

（事務局）

回答

・以前は 3 団体しか補助金が出せなかったが、今年度 4 月から本市ができないような事業、当事者団体が自分たちで計画し実施する事業に対して補助金を交付する形に変更した。

他の団体も含め、こういった事業には補助金が出る、ただし今まで 10 割だったが負担 1 割を当事者で見ていただき、9 割については市ができないような補完事業をしていただき補助している。

○資料番号 1、事業番号 8：障がい者虐待防止センターの運営について
（委員）

質問：令和 5 年度、通報件数 15 件、支援件数 115 件で令和 6 年度、通報件数 22 件、支援件数 49 件とあるが、減ってきている、良い兆候ととらえていいのか教えてほしい。

（事務局）

回答

・全体に関する通報件数があり、資料に記載してないが、まず認定の件数があり、延べ件数ではあるが支援を行った件数となっています。

一概に良い傾向かと言えるものではないが、虐待が集結するまで支援を続けてますので、減少ではあります。

2. 第 7 期飯塚市障がい福祉計画・第 3 期飯塚市障がい児福祉計画の令和 6 年度推進状況

[事務局説明]

資料 2 に基づき説明する。

※資料 2 の訂正について

6 ページ「2 進捗状況」中、②-2 就労定着支援事業による職場定着率【事業所(1 ヲ所)の職場定着率】は 43%ではなく、37.5%であったと訂正した。

[委員からの意見、質疑応答]

○障がい者基幹相談支援センターについて

（委員）

質問：基幹相談支援センターに当事者部会を立ち上げてほしい。

	<p>(事務局)</p> <p>回答</p> <p>・基幹相談支援センターは事務局となり、地域の障害福祉サービス事業所、医療機関などいろいろなところに参画いただき、地域の課題抽出を行って圏域２市１町の施策に反映することを行っている。</p> <p>検討協議の中で専門部会を４つほど設置しており、その中で当事者の意見を伺いたいとの意見もあり、当事者団体別のヒアリングを行いながら検討している状況です。</p> <p>いろいろな意見を伺いながら、専門部会の設置に向け進めていきたいと考えています。</p> <p>４．その他</p> <p>[議長提案による各団体活動紹介]</p> <p>各団体より活動内容の紹介</p> <p>～閉会～</p>
会議資料	<p>1. 会議次第</p> <p>2. 【資料１】第４期飯塚市障がい者計画の令和６年度進捗状況</p> <p>【資料１-別紙１】障がい福祉サービス等指定事業所数調べ</p> <p>【資料２】第７期飯塚市障がい福祉計画・第３期飯塚市障がい児福祉計画の令和６年度推進状況</p> <p>3. 事前質問及び回答書及び資料</p>
公開・非公開 の別	<p><input checked="" type="checkbox"/> １ 公開 ２ 一部公開 ３ 非公開</p> <p>(傍聴者１人)</p>
その他	